年少組、第一保育期

——滿四歲から滿五歲——

生活訓練

第十三週

自分のものにせよ、他人のものにせよ、叮嚀に取り扱ふことは、是非つけたい習慣である。實際に習慣である。惜しいから大事にするとか、叱られるから大事にするとか、そんなことを一々考へてすることではない。眞に習慣として行はれることであり、それでなければならない。

第十四週

第一保育期の終りが、此の保育案では七月の十日になつてゐるが、これは一般には通じないことであらう。女子高等師範學校の附屬幼稚園の立案で、正直に自分のこころのまゝになつてゐるが、之れは多くの幼稚園に適するやうに、もう少しおそくまでにした方が適切であつたかも知れない。

こころで、夏休み中の諸注意をこゝで與へることになつてゐるが、之れは他の週のと異つて、幼稚園でする生活訓練ではない。夏休み中、家庭でされるべき生活訓練であつて、謂はゞ修身訓話といつたみたいなことである。從つて、保育案といふのでもなく、先生の用意である。さて、その夏休みの諸注意の條項に就ては、親達に話したいこと、書付けにして家庭へ持ち歸らせたいことの方が多くて、幼兒へ直接に言つたところで仕樣のないこともある。『皆さんは夜寢冷えをしないように御注意なさい』なんかは、その最も著しいものである。寢冷えをしないやうに、よく蒲團をかけてゐやうと思つたつて、熟睡中のことでごうしようもな

い。寢冷え〳〵なんて考へつゞけてゐたら熟睡することも出來やしない。之れなんかお母さんに寢ずの番を賴むか、蒲團をはいでもいゝ豫防注意をよくして貰ふか、ごつちにせよ、幼兒に言つたつて仕方がない。こんな風のことは、他事もいくらもあることである。『お休み中も歌をうたひ、遊戯をし、繪を描き、製作をし、自己保育を忘るべからざること。』そんなことをいふ先生もあるまいが、又あるやうの氣もする。先生も何んの氣もなくおつしやるに過ぎなからうが。

それならば、かういふことを注意すべきかといふと、私なら、夜早く寢ることを何よりも强く約束して置きたい。それも、親の方で注意しなければ、實行出來ないことであるが、親が言つても、なか〳〵實行され難いことである。それを幼稚園でよく言ひ聞かせて置くと案外——ではない。それが當然かも知れないが、なか〳〵きゝめのあるものである。そして、子どものよき生活の一切の元締めになるものは、此の早寢の一事に有すといつていゝ位大切なことである。

それから、之れは生活訓練といつていゝかどうか分らないが、朝顏の鉢を持たせて歸すとか、何か一つの繼續製作を課するとか。それを夏休み中の仕事にさせるのである。これは相當面白いことであらうし、生活訓練ともなるものである。

その他いろ〳〵。

誘導保育

第十三週

七夕まつり

この祭りは、陰曆の七月七日に行はれるもので、本來は初秋の行事であるが、現今は殆んど陰曆と云ふものを採つてゐないし、又一ト月おくれの八月七日にする所もあるが、その頃は幼稚園がお休みであると云ふ樣な關係で、新